



ニラの葉位別・部位別成分含有量（微量元素）

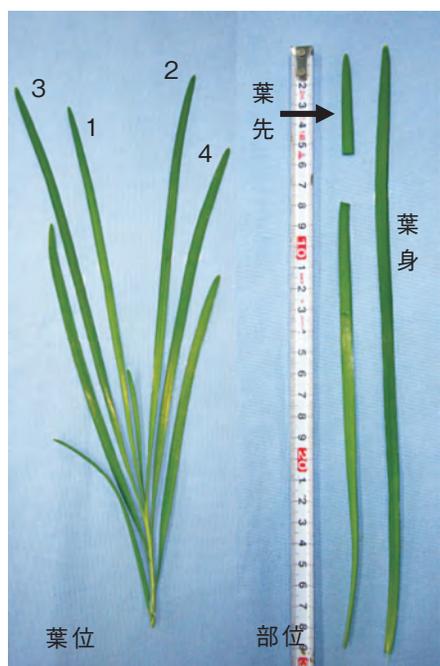


写真1 ニラの分析葉位
および部位

注) 葉位：芯葉が直前に展開した葉の半分以上の長さになれば1枚目とし、半分未満の場合は直前の展開葉を1枚目とし、芯葉から外葉（下位葉）に向けて数えた。

部位：葉身は全葉、葉先は葉身の先端部5cm程度とした。
いずれも4枚目までを分析に供した。

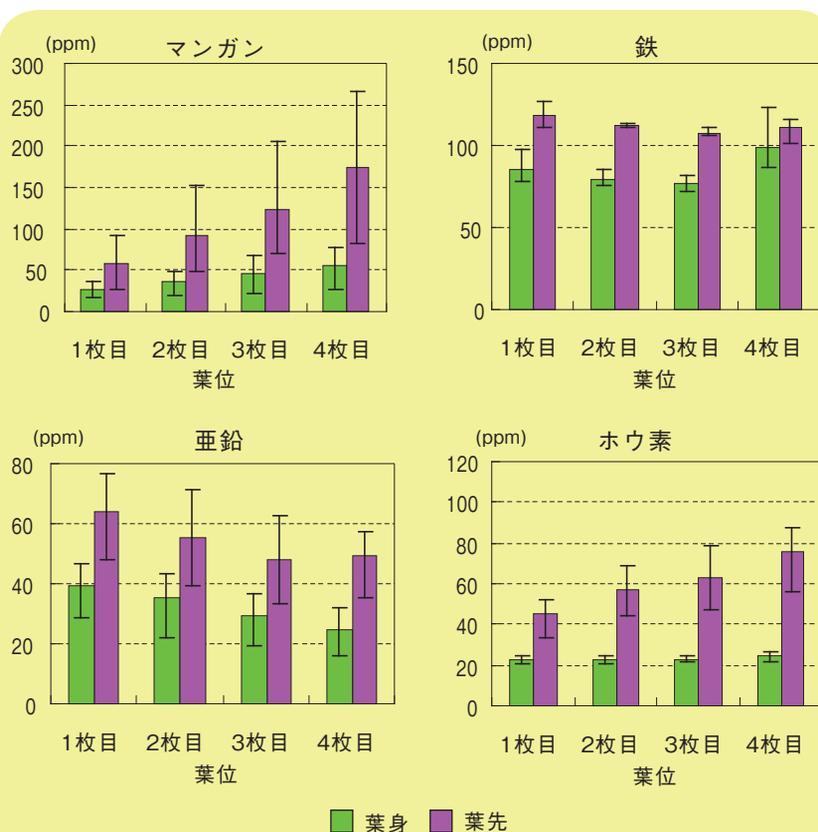


図1 ニラの葉位別・部位別成分含有量（乾物当たり）

注) 棒グラフは平均値、エラーバーは最大値と最小値を示す。
品種：‘スーパーグリーンベルト’
調査点数：3農家（出荷調整前のニラ各2株）
採取日：平成21年11月30日、12月21日、22年1月18日。

本県の基幹品目である施設栽培ニラでは、葉先枯れ症状による生理障害が問題となっています。そこで現地で収穫されたニラの葉位別、部位別（写真1）の微量元素含有量を調査しました。

マンガン含有量は、葉身16~79ppm、葉先27~266ppmで、葉身および葉先とも葉位が進む（早く展開した葉）ほど高くなり、その傾向は葉先で顕著でした（図1）。

鉄含有量は、葉身72~124ppm、葉先101~127ppmで、葉身および葉先とも葉位による一定の傾向は認められませんでした（図1）。

亜鉛含有量は、葉身16~46ppm、葉先33

~77ppmで、葉身では葉位が進むほど低く、葉先では3枚目までは葉位が進むほど低くなりました（図1）。

ホウ素含有量は、葉身21~27ppm、葉先33~87ppmで、葉身では葉位による差はありませんでしたが、葉先では葉位が進むほど高くなりました（図1）。

また、いずれの要素とも葉身に比べて葉先の含有量は高くなりました（図1）。

以上より、各微量元素の含有量は葉位や部位によって異なることが明らかとなり、生理障害の診断にあたっては、それらを踏まえて判断する必要があると考えられました。（土壌肥料担当 岡林美恵 088-863-4915）